

# 地域と学校で子供を育てる環境作り

埼玉県熊谷市

活動名  
奈良っ子ふれあいメイト

関係する学校名  
奈良小学校

基本データ	学校支援活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	1人	14.1人	54日	15年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		校庭、体育館、和室、研修室等		有	一体型					
土曜日の教育活動	統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図



役職	(地域での役割)
運営委員	農業サポーター
運営委員	折り紙で遊ぶ会会長
運営委員	奈良加工研究会コスモス会長
運営委員	婦人会会長
運営委員	青少年健全育成会会長
運営委員	小学校校長
運営委員	小学校教頭
運営委員	小学校教諭
運営委員	小学校PTA会長
運営委員	子ども会会長
運営委員	おやしの会会長
運営委員	学生サポーター代表
運営委員	教育委員会指導主事
コーディネーター	中学校PTA会長
教育活動推進員	小学校PTA副会長
事務局	

**活動の概要・経緯**  
本教室は、市内でも有数の伝統ある教室である。また、埼玉県教育委員会発行『平成27年度「学校応援団」放課後子供教室実践事例集』に本市の代表として掲載される、模範的な教室でもある。具体的には、ビニールハウスの骨組みを利用したスイカの空中栽培が特徴の「農業体験教室」を行ったり、地域の「折り紙で遊ぶ会」の協力で折り紙教室を行ったりしている。7月には、学校でキャンプを行い100人以上の子供たちが参加した。秋には、親元を離れ地域の農業活性化センター（アグリメイト）に宿泊しながら学校に通学する「合宿通学」を、5泊6日の日程で実施している。合宿通学は、自治会連合会・健全育成会・奈良加工研究会コスモス・婦人会・親父の会・近隣の大学の学生サポーターの協力により、実施している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【特徴的な活動内容】

11月に親元を離れ地域の農業活性化センター（アグリメイト）に宿泊しながら学校に通学する「合宿通学」を5泊6日の日程で実施している。合宿中は地域の方々や指導の下、自分たちで炊事・洗濯・清掃等を行っている。炊事では、郷土料理を扱ったり、各家庭のレシピで調理し味わうことで、郷土愛を深めている。また、教員を目指す近隣の大学の学生20人程度が学生サポーターとして、宿題の指導を始め、子供の生活を全面的に指導している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 「異年齢集団で寝食を共にする」  
異年齢の子供たちと交流する機会が減少している中で、寝食を共にしながら共同生活を体験することで、子供たちのコミュニケーション能力や自立心を養うことにつながっている。
- 「通学しながら日常生活にほぼ近い状態で生活する」  
家庭において日常的に炊事・洗濯・清掃などを手伝う機会が減少している中で、この生活体験が自活へとつながっている。
- 「ゆっくりとしたリズムで生活する」  
特別なプログラムを設定せず、自主性を尊重し、ゆったりとしたリズムでの生活体験を繰り返すことで、基本的な生活習慣を身に付けている。
- 「自ら考え工夫する」  
子供との関わりでは、手出し口出しを最小限度にすることで、子供たちの自立性や自主性を引き出す。
- 「日常の生活圏で行う」  
学校と家庭と地域が一体となって子供たちを育てていくことで、合宿通学を通して、地域の教育力も増している。
- 「熊谷の子どもたちは、これができます 4つの実践（朝ごはんをしっかりと食べる。呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。「ありがとう」「ごめんさい」と言う。友だちをたくさんつくる。）と 3減運動（テレビの時間を減らします。ゲームの時間を減らします。スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。）」を実践する場である。

## ● 事業を実施しての効果・成果

5泊6日という長期間にわたり共同生活をする中で、自らの壁を乗り越える経験を何度となく繰り返すことになる。その結果、子供たちの協調性を高めることができた。そして、地域の方との関わりや郷土料理作りを通して、郷土愛を深めている。また、基本的な生活習慣が身に付く基盤となり、自立性や自主性が増していくことで、学校生活や家庭生活においてよい影響が出ている。

学習支援の面では、下校した児童が会議室に集まって一斉に学習する時間を設けている。そこでは、上級生が下級生を指導したり、大学生が指導したりする姿が随所に見られる。特に添削指導まで丁寧に行う大学生の指導は好評で、児童がこれまで理解できなかった学習内容を定着させることができるなど成果を上げている。

## ● その他

合宿通学期間中に、学生ボランティアが主に宿題に対して学習支援を行っている。（5泊6日の期間中）



近隣の大学の学生サポーターによる宿題の指導



地域の方と学校職員が引率する登校風景